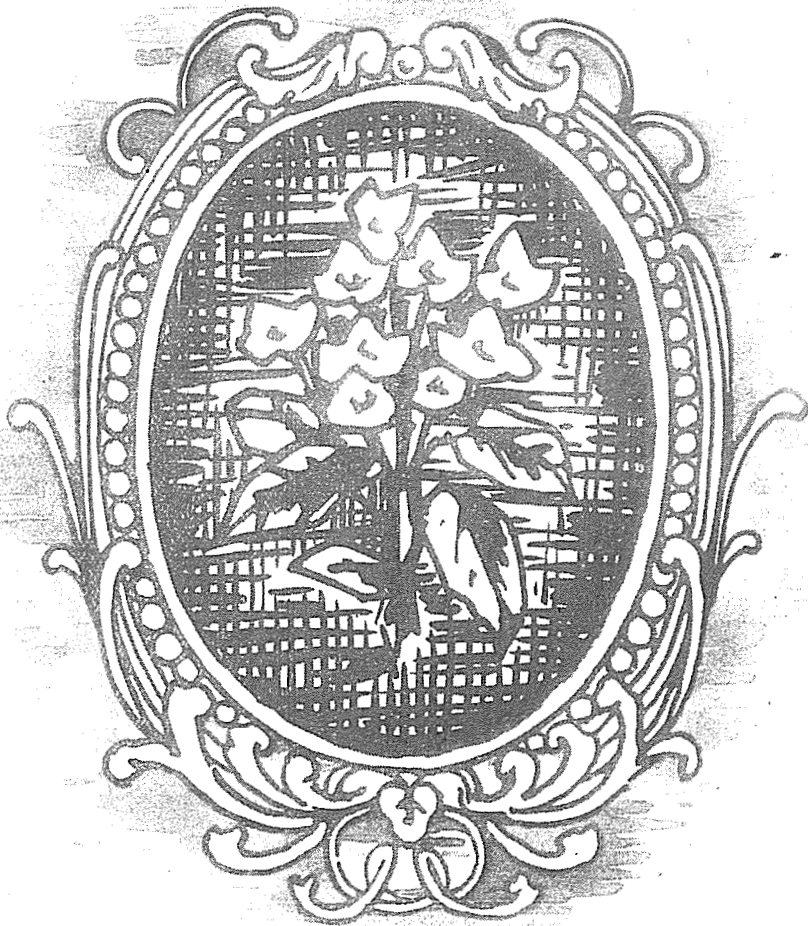


西大學生報

第 七 十 五 號

昭 和 十 五 年 一 月



關 西 大 學 學 報 局 發 行

關西大學學會發行

關西大學
研究論集

第九號 法律・政治篇

(昭和十四年十二月發行)

- 天皇現御神思想の瞻仰……教授 吉田 一枝
- 國家の方法論的理解……教授 岩崎 卯一
- 安定と變化より撰たる
- 九國條約の適用……教授 用上 敬造
- 國內法に於ける公序……教授 柳澤 兼助
- フランス法における生存
- 配偶者の相続權……教授 木村 健助
- 合資會社有限責任社員
- の責任の特色に就て……教授 野村 次夫
- 成立中の株式會社……助教 國茂 胤臣

第九號 經濟・商業篇

(昭和十四年十二月發行)

- 地方税制の考察……學長 神戶 正雄
- 利子と貨幣的要因……教授 青川 太郎
- 國民所得の統制……教授 正井 敏次
- 明治初年に於ける取引所
- 制度概要……助教 佐伯 三郎
- 布哇に於ける大邦移民に
- ついて……教授 河村 宜介
- 簡尾郡市商店街の構成
- と動向……教授 加藤金次郎
- ブルノ・ヒルデブランド教授 赤羽豊治郎

第九號 文學・哲學篇

(昭和十四年十二月發行)

- 行の教育……教授 三枝樹正道
- キエルケゴールの絶望
- 概念……教授 大小島眞二
- 春秋時代に於ける國交(一)……岡本勝治郎
- 蘆庵と景樹(上)……助教 安川安太郎
- 英文學の哲學的構造……教授 片岡甚太郎
- J. M. Barrie 覺書……教授 山田松太郎
- THATの指示的性質……教授 八鳥 治一
- 方陣論……教授 河村 信一

- 第一號 (昭和九年十月發行)
- 第二號 (昭和十年六月發行)
- 第三號 (昭和十年七月發行)
- 第四號 (昭和十一年一月發行)
- 第五號 (昭和十一年七月發行)
- 第六號 (昭和十二年一月發行)
- 第七號 (昭和十二年十一月發行)
- 第八號 (昭和十三年十一月發行)

定價各壹圓

發賣所 甲文堂書店

大阪市東區川島長柄中道
振替六二五二〇番

國際情勢大觀

京大名譽教授
法學博士 末廣重雄

目次

國際情勢大觀……………末廣重雄	(一)
新刊紹介……………	(七)
學内報……………	(八)
冬期授業日程—學生生徒募集—日本文化講義—教練奮闘—石川教諭戰傷死—三島文庫設置—昭和十四年臨時試驗卒業者	
校友……………	(九)
校友會役員決定—大阪支部—東京支部—大連支部—新京支部—尼崎支部—三七會—神戸市役所關大クラブ—關大神戶會—青洲會—會員消息	
戦線だより……………	(二三)
ハイラル通信……………山中木太	(二五)
學生彙報……………	(二八)

○本文は去る十一月五日大阪中之島中央公會堂に於ける昭和十四年度校友總會當日の講演速記である。編輯の都合上一部省略したる點講演者並に讀者に對し諒恕を乞ふ次第である。

唯今より國際情勢大觀と題してお話申し上げます。私は元來甚だ話下手でありますから、或はお聞き苦しい處があるかも知れませぬが、一時間程御辛抱を願ひます。

年々激増する人口を如何にして養つて行くべきかといふことは、我が國とドイツ兩國の共通の悩みであります。イタリーもこの仲間入りをして居ますが、今夕はイタリーのお話は致しませぬ。日獨共通の悩みのこの問題解決の爲に、東亞に於ては申上げる迄もなく支那事變が起り、歐洲に於ては、或は世界戦争となる處のある處の今次の戦争が始つて居るのであります。私は歐洲戦争勃發の責任者といふべきドイツのヒットラーのいふ處を先づ諸君に申上げて、國際情勢の方へ移らうと思ふのであります。

彼は如何にしてドイツ民族を養ふべきか、といふことに就きまして四つの方法を擧げて居るのであります。それは彼の著書「マイン・カンフ」(我が闘争)中に書かれて居る處のものであります。彼は先づ第一に産兒制限といふことを人口問題解決の一つの方法として擧げて居るのであります。併し乍ら彼がいふ如く、産兒制限では問題の根本的解決が出来ない。この方法は自然

陶汰によらず、弱い者劣れる者を保存するからドイツ民族の發展を期することが出来ない。餘りに消極的で、駄目であるとして、彼は之を一蹴して居るのであります。その次に彼が擧げて居るのは國內開發であります。併し乍ら彼の觀る處に依れば、人間の欲には限りがないが、國內開發には限りがある。だから結局この方法では行詰るときが来る。行詰ればどうするかといへば産兒制限に遁路を見出さざるを得ないであらう。それは相變らず駄目であるといふので、更に第三、第四の方法を擧げて居ます。第三の方法は領土の擴張であります。第四の方法はドイツの商工業を旺んにして輸出を増加し、國民が豊かな生活が出来るといふのであります。彼のいふ處によれば、ドイツは所謂レーベンス、ラウム、ドイツ民族が生きて行くに必要な場所をどうしても求めなければならぬ。領土的發展をしなければならぬ。領土的發展をするには歐洲大陸に於てドイツに隣接する地方に於てせねばならない。土地續きにドイツに結合し得る地方を必要とするのである。然らば歐洲に於てドイツが新に領土を獲得し得る望のあるところは、何處かといへばロシアの小ロシア(ウクライナ)地方であります。ロシア

の穀倉といはれて非常に天然資源の豊富な場所であり
ます。この地方をドイツ人の生活の場所として獲得す
べきであるといふのであります。併しドイツがロシア
と争ふ爲には英國を味方としなければならぬ。英國
と同盟しなければならぬ。つまり英國の力を借りて
ドイツ民族が生存、發展して行くに必要な土地を得や
うといふのであります。併し乍らこの第三の方法によ
り英國を味方とする時は、ドイツが植民地を求むべく
西方に向つて發展することは出来ない。又ドイツが商
工業を大いに旺んにして世界の通商貿易に乗り出すこ
とも肝腎の英國と衝突する處があるから駄目である
一方に於てロシアと衝突し、他方に於て英國と軋轢し
ては腹背に敵を受くることとなるから、ドイツは専ら
ロシアの方向に向つて進み、謂はゆる東向政策を執ら
なければならぬ。第四の方法はドイツに取つて不利
でありますから、ヒットラーは第三の方法を行はなけ
ればならないといふのであります。彼が「マイン・カ
ンプ」の中に論ずる處はこれでありませぬ。處がドイツ
は世界戦争前には第四の方法を實行した。御承知の通
り植民地獲得戦、通商貿易戦等に於て英國と非常に競
争し、従つてドイツは前世紀の終頃から海軍大擴張を
行ふて、正に英國の壘を壓せんとした、處が御承知の
通り英國は昔から歐洲大陸に競争國が現はれる場合
には、これを片端から倒して、今日の大英帝國を作つた
のであります。曾てはスペインを倒し、オランダを倒
し、ナポオレン一世のフランスを倒したといふやうな
譯でありますから、世界戦争前に英國と激烈な競争を
始めた處のドイツを捨て、置かなかつた。ここに於て
佛蘭西及ロシアと結んでドイツと戦つたのであります

その結果は御承知の通りにドイツの大敗北となつた。
カイザーはオランダに配所の月を眺めなければならぬ
いやうなことになつた。處が世界戦争後、ヒットラー
がドイツの政權を握りました一九三三年以後に於いて
彼はドイツの手枷足枷となつてドイツをして自由な行
動をすることを許さなかつた處のヴェルサイユ平和條
約を破壊すべく起つたのであります。現状打破の爲に
驟起したのであります。先づ一九三五年——今より五
年前にヴェルサイユ平和條約の中の所謂軍事條項、ド
イツの陸海空軍を大いに制限した處の軍事條項廢棄を
手始めに、或はラインランドに侵入し、オーストリア
を併合し、進んでチェッコ・スロヴァキアのズデーテ
ン地方を割取し、次でチェッコ・スロヴァキアの大部
分を併合した。まだその外にも領土の獲得があります
が、つまり現状の打破がドイツの政策であります。こ
こに於て現状維持を政策とする英國としては、手を掛
いて見て居る譯に行かなくなつたのであります。
最近ヒットラーの實行して居る處は、彼が「我が闘
争」中にいふ處と全く逆に出るやうになつてしまつた
のであります。前に述べたやうにヒットラーは英國と
同盟してロシアを侵略する代りに、今はロシアと手を
握り合つて英國と戦ふことになつた。ロシアと提携し
て行かなければならぬ程最近の國際情勢が切迫した
のであります。

○
處が驚くべきことはロシアと不侵略條約を結んだ處
のヒットラーは、最近迄當のロシアを散々に悪罵し攻
撃して居たのであります。ヒットラーは「マイン・カ
ンプ」の第三十七版一九三三年ナチス政權成立後の版
の中に左のやうに思ひ切つたことをいつて居ます。
同盟條約を締結しても今日のロシア政府には之を
履行する誠意があるとは考へられない。ロシアの現
政府は血に汚れた犯罪者である。元來ユダヤ人は深
刻な性質を有し嘘が上手で、其の上世界制覇の野心
を包蔵してゐる。而して現ロシア政府當局は當に其
のユダヤ人である。彼等の目的とするところは獨逸
を第二のロシア化するにある。我々は斯かる危険な
者を相手として同盟を締結してよいであらうか。ユ
ダヤ人には條約の神聖などは眼中にない。信義の念
など棄したくもない。彼等は泥棒だ。かつばらい
だ。追剥だ。斯かる手合と條約を締結する程危険な
ことはない。
ヒットラーは今より僅か數年前に、追剥だ、搦拂ひた、
盜賊だと悪態をついた處の者と不侵略條約を結ぶこと
になつたのであります。何たる大きな變化でありませ
ぬ。ヒットラーはビスマルクには一定した外交政策は
なかつた。彼はオツポチニストであるといつて居
るが私をしていはしむればヒットラーはビスマルク以
上のオツポチニストであります。如何に窮したか
らとて共產黨征伐を旗印とした彼が赤露と手を握ると
いふのでありますから驚き入つたる次第といはなけれ
ばなりません。さうして今やロシアと共謀になつてポ
ーランドを分割し、その約半分を得たのであります。
斯うなればドイツとしては東向政策を執ることは少く
とも當分の間は出来ない筈であります。約東などはど
うでもよろしい、其の日其の日の出来心であるといふ
筆法でやれば格別ですが、兎に角當分の間は東向政策
を執る譯には行かないであらうと思ふのであります。

言葉を換へていへば、ドイツはロシアのウクライナ地方を奪つてこの地方から食料品等を得る政策は實行が出来なくなつたでありまじやう。さうなると、ドイツは今後西方に向つて進まなければならぬといふことになる。植民地獲得、それは世界戦争の結果として、英國やフランスに奪はれた處の舊植民地を奪ひ返すのみならず、恐らく英佛が豫てより領有して居る植民地の割讓を(今次の戦争に勝つたならば)要求することになるだらうと思ひます。更に世界大戦前同様のいに通商貿易の發展に乗り出さざるを得ない。斯うなれば、ドイツと英佛との關係はどうしても今次の戦争を徹底的にやるより外には解決の途はないといふことになつて來るのであります。

さて世界戦争の時には英佛はカイザー打倒といふ旗印を立て、カイザーは平和の敵である、國際平和の礎立の爲にはカイザーを倒さなければならぬといふとして戰つたのであります。今次の戦争に英佛はヒットラー打倒を看板にすることになつた。最近チェンバレン始め英佛の政府當局は、佛蘭西政府當局と共に、ヒットラー主義打倒といふ旗印を高く掲げて居ます、けれども、實は英國本位で、英國にとつて最も有利な世界の現状維持の爲に戰ふて居る譯であります。今次の戦争は世界戦争當時の戰勝國である英佛の利益を基礎として出來上つて居るヴェルサイユ平和條約體制を打破しやうとするドイツと、之を維持せんとする英佛との戰争なのであります。簡單にいへば英國とドイツとの争鬪戰であります。喰ふか喰はれるかの大戦争であります昔ローマとカルタゴとの戦争は相手不倒さなければ止

まない戦争であつて、とうとうローマはカルタゴを亡ぼしてしまつた。今次の戦争は何處迄進むか分りませんが、兎に角英國とドイツとは現在の處ではとことん迄争ふ決心を持つて居る。決して生温い考へを持つてこの戦に乗り出したのではないのであります。英國としてはヒットラー主義を打倒し、將來英國に楯突かないドイツを作り上げる。ドイツとしては世界の覇權を握つて居る處の英國を打倒してしまふといふ非常に強硬な決心を以て戦争に乗り出したと見てよろしいと思ひます。

處が今次の戦争が始つて見ると寔に華々しくない戦争であります。短氣の日本人にとつては、寔に齒痒い次第であります。ですから、英獨が開戦しても戦争して居るのか、どうか、今以て判らないやうでありますけれども、御承知の通り華々しい戦さが出來ないやうな状況の下にあるのであります。つまり陸戦に於てはどちらも動くことが出來ない。動けば必ず非常な損害を蒙る。つまりフランスの對ドイツ國境にはマデノ線を蒙る。つまりフランスの對ドイツ國境にはマデノ線がドイツの對フランス國境にはジグフリード線といふのがあります。双方ともに難攻不落の大要塞といつてよい。従てドイツがマデノ線を破るにも、フランスがジグフリード線を突破するにも、どうしても何百萬人といふ犠牲を出さなければならぬでありまじやうさういふことは歐洲の國家としては、殊に英佛のやうなデモクラシーの國としては中々出來すまいから英佛がジグフリード線の突破を試みることは、先づないかと考へてよい。ドイツの方も恐らく同様であります。つまり陸上では最後まで華々しい戦はないとい

ふことになり得ます。そこで兩國共に經濟封鎖をやるやうになつて、現在着々として進行中であります。このことに就て少しくお話を致したいことがあります。

御承知の通り、英國は國內に於て一ヶ年間に生産する處の小麥を以て英國人を僅かに六、七週間しか養ふことが出來ないといふことであります。不足の分は悉く自國の植民地、若くは外國から海を渡つて遙々輸入しなければならぬ。寔に安心の出來ない國であります。制海權を握つて居ればよろしいが、一旦制海權を失ふならば、英國は忽ち食料に窮し、全國民は飢餓に陥つてしまふのであります。それのみならず、英國の旺んな工業は原料品の大部分の供給を國外に仰いで居る。例へば英國の紡績業の原料である處の棉花はインド、エジプト、或は米國より海を渡つて入つて居ますでありますから、海上交通が杜絶することになれば、英國の旺んな紡績業といふものは忽ち機械の運轉を止めなければならぬことになる。英國は世界戦争の時に、ドイツ潜水艦の爲に海上交通を大に遮断せられ、ドイツがもう少し頑張つたならば英國は屈服したであらう。世界の歴史は全く逆になつたであらうといはれる位であります。今次の戦争に於て、ドイツは御承知のやうに空軍と潜水艦を以て英國を封鎖して居る。この封鎖に成功するかどうか私は知りませぬが、兎に角ドイツの英國封鎖が成功すれば、英國は屈服するの外なく、この場合には恐らく戦争は短期であらうと思ひます。

これに反して英國が最後の勝利を得る場合はどうで

ありまじやうか。の場合には少なからぬ時間を要すると思ひます。世界戦争當時英國の首相であつたロイド・ジョージは今次の戦争では非常な自重論者であつてチェンバレン首相のすることは危つかしいといふのであります。彼は最近の演説の一節に「この前の大戦ではロシアはドイツを助けるどころか、自國民を養ふことすらも出来なかつたにも拘らず、英國はドイツを封鎖によつて締めつけるのに四年もかゝつた、今次の戦争が死力を盡して最後迄推し進められることになればその長さも勝敗の数も豫測を許さざるものがある」と云ひ、戦争は頗る長期に亘るであらうといふことを豫言して居ます。斯やうな次第で、英國は大海軍力を以てドイツに對する經濟封鎖を行つて居るのであります

世界戦争と今次の戦争と違ふ處はロシアが前には英國の味方であり、今日は中立を守つて居ることであります。ドイツは一九一八年にロシアが聯合軍を脱退する迄はロシアから物資を得ることが出来ませんでした。脱退後に於ても、大革命の爲に國內の經濟組織は根本的に崩壊しましたから、ロシアは物資を獨逸に供給することが出来ないやうな有様でありました。今度は世界戦争當時よりは確に或る程度の物資を供給することが出来るのであります。ドイツはバルカン方面からも物資を得ることが出来るでしやう。従つて今次の戦争は頗る長期に亘り、甚だ華々しくないが深刻な戦争が行はれるものと見るのが、先づ正しい見方であらうと思ひます。さうなれば、いくら富んで居る英國でも結局疲弊困憊しませう。況んや現在豪い勢ひではあります、未だ經濟的に世界戦争の創痕を充分に癒すことの出来ない處のドイツに於てをやであります。長

期に亘る戦争の終りには、双方ともヒヨロ／＼になつて起つ力もないやうになることは、殆ど疑ひのない處であります。

○ 處で、ロシアは中立國として、物資を以てドイツを援けてゐますが、何の爲に援けるのでありまじやうか米國の有名な政治評論家マーク・サライヴァンは斯う申して居ます。「今次の戦争でスターリンは彼及共產黨員が二十二年來企圖する處を實行せんとするのである。彼は世界革命を目論むで居る。彼はロシアが大衆に戦争に参加することを避け、他の凡ての國家をして参戦せしめんとするのである。彼にとりては交戦國の孰れが勝つかは問題でない。英國が勝たうと、ドイツが勝たうと、そんなことはどうでもよい。彼の希望するのは交戦國が疲弊することであつて、列國の疲弊に乗じ、世界戦争末にロシアが疲弊したときにロシアに於て爲した處を、今列國に對して爲さんとするのである」私はこの見方はつまり次のやうな譯であると思ひます。世界戦争の終りにロシアは疲弊困憊を極めたここに於てロシア人は平和を望み、食ふに困つた爲にパンを望み、而してロシアの農民は土地に不自由したから土地を望んだ。斯かるロシアの國狀に乗じて彼はレーニンなどとともにロシア國民に對して、自分達のいふことを聞かざらば、平和を諸君に與へる、パンを與へる、土地も與へる、諸君の生活を豊かにしてやるのであるから、自分達の唱へる共產主義に賛成せよと叫んだ。斯くしてロシア國民の疲弊困憊を極めたのに乘じて、一九一七年十一月の革命に成功した。今度スターリンがやるのはロシア國內に於てではなくて、交

戰國たる英國に對して、ドイツに對して、フランスに對して、イタリーが参加すればイタリーに對しても、つまり疲弊困憊を極めるであらう處の諸國に對して共產主義を宣傳し、社會革命が行はれるやうにしやうと目論み、この爲にはなるべく戦争を長引かせる必要がある。早く戦争が済んでは駄目である。二年より三年三年よりも四年がよい、ロシアにとつてはドイツへの物資の供給といつた處で、たゞやる譯ではなくて、勿論その代金はとつて居る。とことん迄戦争をやらせ、疲弊困憊した處に乘じやうといふのがスターリンの今や企圖して居る處であるといふことであると思ひます。サライヴァンの意見は間違つて居ないと思ひます。

○ 處で英國が戦争に勝つとしても長くなり、疲弊困憊を極めるに相違ない。その結果或は印度を失ふやうなことが起つて來ないとも限らない。御承知の通り世界戦争の時ドイツは英國を倒す一つの手段として、印度人に獨立運動を起させるべく、いろ／＼宣傳しました。今度もやると思ひます。ロシアもこの機會に印度人に對して赤化の宣傳をするのでありまじやう。一寸横道に入りますが、英國が今日迄の反日態度を改めず我が國の東亞新秩序建設を妨げるならば、印度に革命が起るやうに努力することが、英國を牽制して、東亞新秩序建設に反對せしめないやうにする有效な手段であります。我が國が起たなくても、ドイツ、ロシア等が大いにやれば成功しないとは限りませぬ。併し私はドイツやロシアにやらせたくないのではありません。又印度が赤化することは我が國にとつては少なからず脅威になるから、出来るならば我々日本人の手に依つてやりたい

と考へて居るやうな次第であります。

さて、米國とロシアとはどうなるか、現在戦争外に立つて居る米國とロシア兩國ともに終り迄中立の立場に立つものとして考へて見たいと思ひます。御承知の通り米國は世界戦争で大成金になつた。世界戦争が始つてから旺んに武器、軍需品、その他食料品でも、何でも彼でも交戦國英佛に賣り込んだのであります。この爲に米國は非常に金儲けをした。これが爲に次のやうなことが起つた。世界戦争直前に私は米國へ參りましたが、その頃には米國は物資の豊かであつたといへありません。料理屋で出す食物は非常に分量が多かつた。先づビフテキの大きさは我が國の三四倍、オムレツも同様非常に分量が多い。それで私は米國旅行中縮尻つたことがあります。汽車の食堂で始めて食事した時であります。一皿では足りないと思ふてビフテキとオムレツ二皿を注文しました。處がボーイが可笑しい顔をして私の顔を見て居た。持つて來ると驚いたです。三四人前程あつても一人では食べ切れない。私のやうな小男が澤山注文するのでボーイが驚いたのは無理ではないのです。ところが、戦争後に行つて見ると一皿の分量が非常に少くなつた。これは戦争中に米國政府が旺んに同國民に對して、お前達の食物を節約して歐洲に送れ、さうするならばお前達の爲、世界平和の爲、デモクラシーの爲に戦つて居る味方が助かるのだ。決して物を捨てな、十分節約して歐洲に送れといふ宣傳をしたのが利いて、汽車の食堂のビフテキ迄小くなつてしまつたのであります。斯ういふやうに致しまして、武器でも食料品でも注文ある物なら何でも

送り、非常に金を儲けたのであります。その結果次のやうなことになつた。一九一四年世界戦争が勃發した當時の米國はまだ債務國でありました。元來米國は建國以來その豊かなる天然資源を開發するに必要な資本を悉く歐洲諸國から供給して貰つた、故に米國は世界戦争に至る迄歐洲に對して債務國でありました。一九一四年の米國の對外債務は約五十億弗、現今の約二百億圓、處が世界戦争が始つて形勢一變しました。何しろ今申上げたやうに米國はどしどし輸出し、巨額の金が流入したから、米國人は歐洲に於て戦争の爲暴落した米國關係の有價證券を買收して債務を償却し更に進んで債權者となるやうになつた。一九二七年の米國の對外債權（歐洲以外に對する債權を合せて）が二百五十億弗、當時の約五百億圓、今日では壹千億圓に當ります。大債權國となつた米國は富めば富む程鼻息が荒く増長することとなつて、日米關係も自ら年を遂ふて險惡になつて來ました。超成金となる今後が思ひやられます。

○
ロシアはこの度ポーランド分割を行ひ、バルト海諸國に對して、バルカンに於て勢力を増進し、西北支那へも侵入し、全く火事泥的にやつて居ます。米國もロシアも今後戦争の進むに連れて國力益々増大し、それだけ東亞新秩序建設に對する妨害力が強まるものと考へなければならぬ。富める米國、大なるロシアが共に我が國の東亞新秩序建設に心から賛成し、協力して呉れば問題はありませぬが、今日迄の情勢に察すれば兩國共に協力して來るものと思はれませぬ。今次の戦争は我が國にとつては必ずしも有利なものと思ふこと

は出來ませぬ。

○
終りに今後の日露關係に就て申し上げます。先般のノモンハン停戦協定以來ロシアの我が國に對する態度は少しく良くなつたやうであります。ここに於て我が國にこの勢ひに乗じて日露不侵略條約を締結すべしといふ論者があります。それが出來れば結構なことではありますが、この問題に就て私の考へる處を少しく述べて見たいと思ひます。御承知の通りロシア政府と一心同體と考へられる第三インターナショナル——國際共產黨は相變らず支那の赤化工作を大にやつて居ます。今次の戦争が始つてから、この工作に益々馬力をかけて居るものと見なければならぬのであります。そしてロシア政府は支那の共產黨に引續いて援助を與へて居るのでありますから、私が今次支那事變勃發以來申して居ることではありますが、蔣介石政權、即ち國民政府は倒れても、共產黨の政府がこれに代る處れがあるのではありません。實に困つた話であります。我が國は防共政策を執つて居るのでありますから、蔣介石政權に代つて立つことあるべき共產黨政府を打倒しなければ聖戰の目的を達することが出來ない。さう考へて見れば我が國とロシアとは所謂氷炭相容れざるものといはなければならぬ。従て、我が國がロシアと提携するといふやうなことは望み得ないことであります。それからロシアは赤化宣傳以外に帝國主義的行動を支那に於てして居る。赤化宣傳と帝國主義的行動とによつて支那の西北部をだん／＼侵略しつゝ、今日同地方を殆どロシアのものにして居るのであります。でありますからロシアが今日迄の對支政策を改めざる以上、私の見

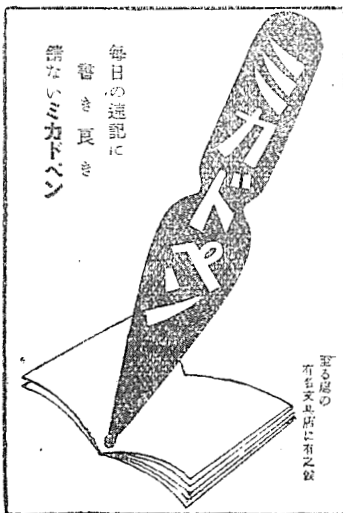
る處に依れば、第二の日露戦争は避けられない。尤も一時的には日露の國交をいくらか改善することは出来ませう。又改善することが望ましいのでありますが、結局第二の日露戦争は避けられないと見て居るのであります。そこで斯かる關係である以上不侵略條約を締結する必要があるではないか。今後五年間でも十年でもよろしい、兎に角ロシアの侵略を防止し衝突を避けることが出来ればそれだけ我が國の利益ではないかといふ見方をする人がありますが、ロシアの不侵略の約束程あてにならないものはない。私は出鱈目に斯ういふことをいふではありません。その論據となることを申し上げます。

○
兎に角私は残念ながら今日のところ日露の國交を根本的に改めることは出来ないと思つて居ます。然らば何故にロシアの約束は信用出来ないといふのでありましやうか。前世紀の半頃英國とロシアとが中央アジアに於て非常に衝突しました。ロシアがシベリアからだんだん南下して中央アジアに出で、それからアフガニスタンに迫り、屢々印度を脅かした時のことでもあります。英國は中央アジアにある軍事上重要な地點メルヴをロシアが占領することを恐れたのであります。これを占領すれば直ちにアフガニスタンへ迫つて来る、アフガニスタンを取れば印度が危いから、英國が大變心配し英露大衝突の危険があつたのであります。その頃ロシア政府は英國政府に對し、メルヴは侵略しないといふことを屢次保障したのであります。處がその保障を反古にしてとうとうメルヴを侵略してしまつた。ロシアの約束は娼妓の起誓同様であります。斯かる古いこと

をいはなくとも、新しいことがあります。一九三二年——昭和七年七月御承知の通りロシアはポーランドと不侵略條約を締結しました。實際の處ポーランドがロシアを侵略することは考へられないことでもありますから、主としてロシアがポーランドを侵略しないといふ約束であつて、大體に於て各締約國は單獨たる他國と共同たるを問はず、他方の締約國に對する一切の侵略行爲並に地方の締約國の領土の保全及不可侵又は政治的獨立に對する一切の暴力的行爲を爲さざることを約したのであります。さういふ約束をして居ましたロシアはドイツと提携して、ポーランドをこの程分割してしまつたが、是れ以上無法な侵略行爲がありませんやうか。それよりも我が國に關係のあることは、一昨年の八月足掛三年前であります。ロシアは支那と不侵略條約を締結しました。その條約の下に於てロシアは平氣で西北支那を侵略して居ることは諸君御承知のことでありましやう。私をしていはしむれば、ロシアは帝政政府たる現在の政府たるを問はず、食言違約の常習犯であります。斯かるものを信頼することは全然出来ないものであります。斯かるロシアと不侵略條約を結んでそれで諸君御安心なさることが出来ますか、斯かる不信行爲を繰返して爲す國を相手にして不侵略條約を結ぶといふことは無益無用であり、否な有害であります。何故に有害であるかといふと、不侵略條約を結ぶときは、國民は誤つてロシアの侵略を受ける危険がないやうに考へ安心するやうになります。油斷大敵であります。何時ロシアが不侵略條約を無視して滿洲國を侵略するとか、北支から下つて中部支那へでも進出し、我が國と衝突するかも知れない。でありますか

ら、世間には日露不侵略條約を結ぶことが最も我が國にとつて賢明な策であるといふ者がありますが、これはどうしても考へ違ひであつて、我が國としては國防を嚴にするより外に安心する途はないと思ひます。要するに東亞の新秩序建設は我が國をして英國、米國、ロシア、これらの諸國と甚しい摩擦を起さしめる危険があるのであります。さうして今次の戦争により以上述べました通り、英國は或は今次の戦争の爲疲弊困憊し大國の地位より墮落して、恐るるに足らぬやうになるのではないかと思はれますが、他の一方に於ては、米國とロシアは今次の戦争に依つて國力を増大すると見なければならぬ。でありますから今次の戦争は我が國にとつて必ずしも結構至極であるとはいへないのであります。世間では今次の戦争の勃發を神風でも吹き始めたやうに考へる人もありますが、それは所謂認識不足であつて、斯かる樂觀は我が國を危ふするものであります。我々としては時局を正しく認識することを要すると考へるのであります。

(一四、一一、五)



ウイリアム・ホールズウォース卿の新著

「英國法の建設者達」 ケムブリッヂ刊

Holdsworth, Sir W. — The Tagore Lecture 1937-'38. —

—The Tagore Lecture 1937-'38.—

越 智 弘

大著「英國法史論」十二卷を以て其令名を唱はれる
オックスフォードのウイリアム・ホールズウォース教授
は英國の持つ法理論史界の巨匠である。教授はかつて
一九三七年末から三八年初にかけてタゴール講座（印
度カルカッタ大學では一八八〇年以來タゴール翁記念
講座を設け英國其他の國々の著名な學者の特殊研究の
發表を兼ねた出張講義を行つてゐるが其稿本は夫々上
梓されてゐる）に於て同名の特殊講義を行つたが、本
書は其稿本に多少の修正と増補を行つて公刊したもの
である。

先づ此書は十二の講義を以て構成され、第一に英國
法の建設者達が法學界に贈つた夫々の業績の記録的檢
討を行ひ、第二に彼等の各々の著述を法理論史との關
聯に於て検討せんとするのであるが、此企ては同時に
彼の主著「英國法史論」に叙述した彼の學問的努力の
結晶をば再び裏返しにして、其裡に躍る人々を通じて
それらの理論史上に於ける地位を語らうとする示唆と
教訓に満ちた本著述となつて我々に提供された。
かやうな目的に於て著者は「グレンワイルとブラク
トン・エドワード一世、リットン及びフオアテスキ

ユ、文藝復興・宗教改革及び羅馬法の受容、セント・
ヂャーマン、モア・エレスミア及びペーコン、エド
ワード・コオク卿、ハアレとノオテインガム、ホルト
とアンズフキールド、ヘイドウイック及びエルドン、
レオリン・ジエンキン、ストウエルと其時代の民法學
者、ブラツクストン、ペンタム及びオースチン、更に
メイン、メイトランド及びボロツク等に就て其論歩を
運んでゐる。

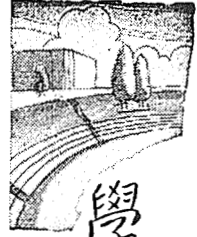
中世殊に十六世紀に於て英國法學者の努力は法の至
嚴性と彼等の誇りである秀れたる其國の議會制度の維
持に集中されたが十七世紀に至つて議會はコオクの法
の中世紀的至嚴性の主張を支持する事に依つて過ぎし
この國の法學者達の努力に報いた。此結果は亞米利加
憲法の血となり、かの國の大審院は何れの國のそれにも
も勝つて法の尊嚴性を強調するに至り、ウォルテル
がいみじくも指摘せる如く一七九一年の佛蘭西憲法の
肉ともなつてゐる。（一三二頁）
著者は英國法の發展史上にコオクの殘して功績はシ
ェクスピアの文學上に於ける及びペーコンの哲學界に
捧げた努力にも比すべきであるとして、キプリングの
エリザベス體の詩中の "lightly to build new world,

or lightly loose Words that shall shake and shape
all after time"

の數句を引用して彼を賞讃してゐる。（一三二頁）

試みに此中から今我々はストウエルの項を窺つて見
よう。ホイケンスの名作「デビッド・カバアフキール
」第十三節に描寫された法律的雰囲気裡にジエン
キン及びストウエルの思想的搖盪を見出した（二一四
—六頁）著者は彼を英國海上法、更に捕獲法の建設者
であるとする（二二五頁）のみならず、或は連綴航海
主義、戰時禁制品、封鎖、敵國又は中立國からの船舶
の購入、中立義務と言ひ、商業住所と言ひ、彼の論述
乃至は意見は何れも現代法の基礎たらざるはない。彼
は當時の海上法の指導者であつたのみでなく、其將來
をさへ卜する存在であつた（二二八—九頁）と。彼が
一七九八年捕獲審判官に就任する二年前ジョン・クイ
ンシー・アダムスがキング海相に送つた書狀に於ても
「英國に於て承認された海上國際法は英國を支配し、
英國は海を支配す」と言ふ通俗歌に依つて表現されて
ゐる」と言つたが、彼は之を身を以て體驗したと言ふ
事が出来る。彼の三十年の裁判官生活、彼は其間に英
國捕獲法の本體を作り又彼に依つてそれは作られたと
言つても決して過言ではなかつた、ストウエル卿の主
張は後に米國に於ても受容られた（二二七頁）とア
ダムスも大戦に際してこう言つてゐる。

かやうな著者の清新な努力は彼の持つ豊富な法律文
化史的知識と相俟つて當初の企圖を可成明確に示して
ゐる。彼だからこそ爲し得たと思はれる此著作は吾々
にとつても好箇の英國生れの「法憲夜話」としての役
目を果して呉れてゐる。



學内報

冬期授業日程

授業終了	授業開始	學期試験
大學各學部	十二月十九日 一月十一日	自十二月十一日 至同 十九日
大學豫科	十二月九日 一月九日	
専門部各部	十二月二十日 一月十一日	

學生生徒募集

昭和十五年度學生生徒募集要項は左の通りである。

法文學部	試験科目	試験期日	出願期日
法文學部	論文、語學(英、獨、佛)ノ中 一科目選擇)人物考査	四月一日	自二月一日 至三月卅日
政治學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中 一科目選擇)人物考査		
哲學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中 一科目選擇)人物考査		
英文科	論文、英文和譯、人物考査		
經濟學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中 一科目選擇)人物考査		

商業學科 論文、語學(英、獨、佛)ノ中
一科目選擇)人物考査

大學豫科 四月四日 自二月一日 至四月二日

第一豫科 英語、國語、漢文、人物考査

第二豫科 英語、國語、漢文、人物考査

専門部一部 四月二、三日 自三月一日 至三月卅日

法文學科 國語、英文和譯、人物考査

經濟學科 國語、英文和譯、人物考査

商業學科 國語、英文和譯、人物考査

専門部二部 四月七日 自三月一日 至三月卅日

法文學科 作文、英文和譯、人物考査

經濟學科 作文、英文和譯、人物考査

商業學科 作文、英文和譯、人物考査

國語漢文科 國語、漢文、英文和譯、人物考査

英語科 英文和譯、和文英譯、作文、人物考査

日本文化講義

日本文化講義は左記の通り實施した。

専門部第二部 十二月十三日於天六學舍講堂

上代風俗に現はれた日本精神とその變化

江馬 務氏

専門部第一部 十二月十八日於天六學舍講堂

江戸時代に現はれた日本精神 江馬 務氏

教練査閲

昭和十四年度専門部第一生徒の教練査閲は十二月十五日淀川新公園に於て第四師團司令部附遠藤少將が行はれた。尙學部及豫科は一月十六日千里山に於て同じく遠藤少將が査閲せらるゝ豫定である。

關甲教諭

石川登大尉戰傷死

昭和十二年八月應召出征以來北支山西の戦線に活躍中であつた關西甲種商業學校教諭石川登大尉は、去る十月六日歩哨線巡察中頭部に重傷を負ひ野戦病院に於て加療中の處、十二月六日名譽の戦傷死を遂げられた。遺族はは原夫人、長男玄二君外二子である。

三島文庫設置

前號所載三島律夫氏より寄贈の約九百冊の漢籍は、天六圖書館内に三島文庫として設置し、一般の閱覽に供することになつた。

昭和十四年十一月

應召者臨時追試験卒業者

専門部第二部法律學科 (五名)

門上 敏次(北海道) 竹立 種一(大阪)

綾 小次郎(香川) 土谷正喜代(奈良)

若田 太平(和歌山)

専門部第二部經濟學科 (二名)

安井 治久(石川) 今村龜三郎(石川)

校 友

校友會役員決定

去る十一月五日昭和十四年校友總會に於て會則一部變更に依る校友會役員の補缺は左の諸氏に決定した。

評 議 員 (四十名)

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 藤田百太郎 | 長尾 梅吉 | 淺沼 淳 | 松尾 七郎 |
| 安川勝太郎 | 小笠原語咲 | 今田 光匡 | 山本 恒夫 |
| 里村安二郎 | 松本標四郎 | 内藤滋治 | 後藤田徳太郎 |
| 岸村徳太郎 | 安達彌五郎 | 楠野 泰夫 | 永井 壘一 |
| 森 明光 | 三宅 通夫 | 岡野 康平 | 中山 幸市 |
| 加藤金次郎 | 前川信之助 | 神保 敏男 | 阿部 正一 |
| 柏本 孝治 | 米原貫一郎 | 藪下 益治 | 北原 之茂 |
| 岸本 芳夫 | 鈴木武夫 | 木田幾右衛門 | 福岡 彰郎 |
| 佐伯 三郎 | 中村 信藏 | 大嶋 武夫 | 北辻 勝 |
| 松原 藤由 | 江原 文造 | 堀本 周三 | 里見 復二 |
- 常 議 員 (十名)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 武田 榮 | 高梨 乙松 | 山崎 敬義 | 神保 敏男 |
| 柏元 孝治 | 春原源太郎 | 寒川 喜一 | 堀本 周三 |
| 松原 藤由 | 里見 復二 | | |
- 幹 事 (二名)
- | | |
|-------|-------|
| 角田好太郎 | 寒川 喜一 |
|-------|-------|

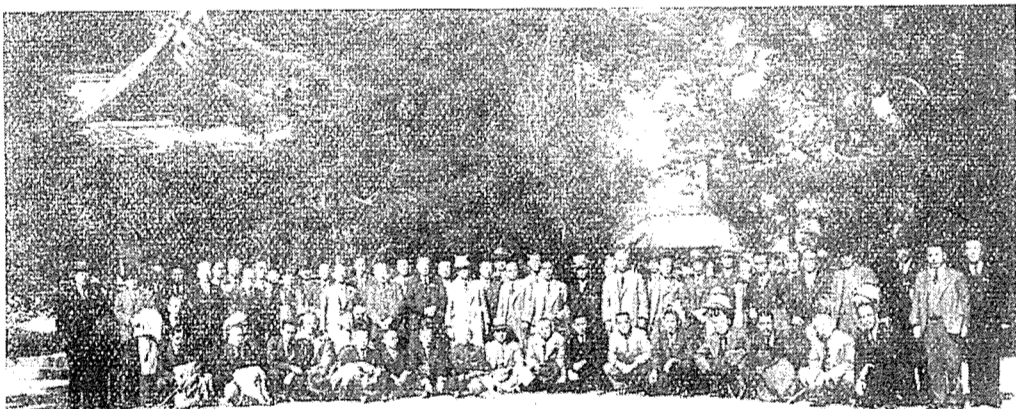
大 阪 支 部

聖戦下第三年の校友會大阪支部秋季總會は去る十一月十九日(日)京洛の地に開催した。午前九時京阪天

神橋驛を發車した一行は桂にて嵐山線に乗替へ、上桂に下車、苔の寺として名ある西芳寺に至る、寺苑は夢窓國師の手になり波なしつゞく苔の緑に錦繡の紅葉映えさすが名園である。寺僧の案内にて逍遙のち、官幣大社松尾神社に参拜、出征校友學友諸氏の武運長久を祈願して玉串を捧げ、境内にて記念撮影をなす。それより電車或は徒歩にて嵐山に出て、渡月亭にて洛西嵐山の秋色を賞でつゝ中食を攝り思ひ思ひに時を過ごして、午後四時半宴會場京都三條「魚清」に集まり、五時開會、内藤副支部長より會計會務報告並に母校の現状を報告し、次で支部長選舉に移り満場一致現副支部長内藤正剛氏を支部長に推し、副支部長には中務平吉氏を推し、兩氏共に快諾、任期満了による幹事選出は詮衡委員を擧げ後日支部長指名と決定して、宴に入り、相變らず愉快に盛會に、靄々裡に散會したのが八時半であつた。

新役員氏名は左の通り

- | | |
|------|-------|
| 支部長 | 内藤 正剛 |
| 副支部長 | 中務 平吉 |
| 幹 事 | 岩崎 卯一 |
| | 富田仲次郎 |
| | 神宅賀壽恵 |
| | 吉川芳三郎 |
| | 竹西 宗助 |
| | 中村長之助 |
| | 中塚 竹藏 |
| | 梅原貞次郎 |
| | 野口政治郎 |
| | 鞍貫 宣 |
| | 山崎 敬義 |
| | 山根 瀧藏 |
| | 前田 常好 |
| | 藤原 光治 |
| | 三島 律夫 |
- 尙當日の出席者は
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 板野 友造 | 今田 光匡 | 飯田 清藏 | 糸島實太郎 |
|-------|-------|-------|-------|



松尾神社境内に於ける大阪支部の一行情

一海 景春 生島 藤藏 島田繁太郎 原田鹿太郎
 橋本 鹿藏 八島 治一 林 實 丹羽宇三郎
 西本 寛一 榎木 浩藏 富田仲次郎 遠部逸太郎
 大崎萬太郎 岡本 義男 大月 伸 尾崎 暢夫
 神戸 正雄 神田 榮吉 桂 忠雄 河村 宜介
 神屋敷民藏 吉村 種藏 吉長 正好 吉木 留喜
 吉川芳三郎 武田貞之助 玉木 三郎 田中 健三
 高松長左衛門 田所留三 丹 二良 高沖 次郎
 辻本 幸臣 永田 瓦雄 中村 公男 中谷 敬壽
 中務 平吉 永井 量一 中村 岩見 木田秀太郎
 村尾 靜明 浦田 豊 植田 完治 歌橋 千秋
 野崎勇二郎 野口政治郎 黒田莊次郎 鞍貫 宣
 山根 瀧藏 安井 章吾 山崎 敬義 松本標四郎
 松本芳太郎 松崎 義盛 前田 常好 松原 健一
 松本 靜史 眞鍋竹治郎 藤原 光治 兒玉 善吉
 近藤 友房 近藤 盛雄 赤羽豊治郎 阿部 甚吉
 佐伯 三郎 菊池金次郎 木村順次郎 岸本 芳夫
 三浦 三郎 三島 律夫 南 清 志野覺治郎
 引野 秀春 鈴木 武夫 以上七八名

東京支部總會

十一月十七日午後五時麹町區丸ノ内中央亭本店に於て東京支部秋季總會並に懇親會を開催す。

第一期卒業の大先輩から本年度卒業の新顔諸君に至る顔合せ互に久闊を述べ、歡談に花を咲かせる程、午後六時過開宴、松澤支部長の挨拶、武田博士の母校に功績多き故北村理事の追憶其他母校の現状を述べられ、矢追先生の發聲にて關西大學の萬歳を三唱し、出席校友諸君各自の自己紹介を終り、作問氏起つて母校今昔

のユーモアに富みたる追憶談あり、宴を閉ち別室に於て小穂矢追先生の健康に關する體験談、板橋氏、古川氏の時局に關する舌端火を吐く如き適切な論究を述べられ聴者をして緊張裡に時間の経過を忘るるの感を抱かしめ多大の感動を興へられ後母校の校歌を合唱して午後十時前漸く散會出席者四十五名、近來にない盛會であつた。

當日の出席者 矢追秀作先生

板橋 菊松 猪俣 顯 井上 成章 原田 正大
 西元 梅松 西川 一行 友次壽太郎 宮山 忠造
 岡部 庄次 岡本四郎九 小見山美夫 大先 一成
 米田 忠八 横井 吉造 武田 宣英 田口 金二
 田中 松雄 高見 行雄 塚本 重斌 築山 茂
 中村 簡吉 永田宗太郎 中村 峯藏 中尾 茂
 野田 義人 山口直三郎 松澤 卓規 古川 武
 福田 繁芳 藤田 實雄 古田吉五郎 深谷 茂
 後藤徳太郎 小堀 登 近藤 二郎 後藤 勇夫
 赤木 重雄 作間 耕逸 北本常三郎 清成五六郎
 貴志 房廣 北山 義衛 衣笠 要一 妹尾 正義

大連支部

十月廿日午後六時より寺内通海務協會に於て秀麗會第四十二回例會を開催す。

普通例會の精か今回もいつもの顔振れながら新入會員として佐分利君出席し一層愉快な雰圍氣を作つた。席上高濱居士より令息御婚儀への校友會からの祝品に對し謝辭が述べられた。

會食後學歌を高唱し別室に於て提題中の「第一次世界大戰の體験を通し第二次世界大戰への心構」に就い

て意見の交換を行ふ。第一次世界大戰に於ける體験者飯田、高濱、室山氏より當時の世界大戰の經濟界の雰圍氣について種々と正味の語があり、之に對し若い方面からちよよいちよい質問を發して仲々有意義な例會として終ることを得た。迄も若きも又新舊の別なく渾然一體たる秀麗會の長所空氣の中に數刻を過し得ることは吾等の感銘深き處であると同時に益益この空氣の助長に努め且つ質的向上に志すことが肝要である。名殘惜しくも九時半一ヶ月の再會を楽しみに散會す

當日の出席者

木村 儀八 飯田 昇 高濱 直一 室山宇太郎
 秀島 金治 加來 茂彦 萩原 博 池内 輝一
 佐分利武雄 安達 竹七 平井 三郎

新京支部

十月廿九日午後六時より大同大街東拓ビル内大洋軒で第五回例會を開催する、固くならない様に、興味の持てる一寸立つて發表し得る程度の研究發表は九月の例會で決議されたが、今日は其の第一回の發表會である。

初の擔當講師は電々の板垣進吾君。

何が出るやらと實に興味津々たる中に講師はちやんと參考資料「滿洲電信電話株式會社の概要」迄持ち込んで御座つたが、大山建大教授の北支出張あり、大同學院の滿洲行政視察旅行あり、當夜の火急事故者も意外に多く意氣込んだ講師の先生には大變すまなく感ずるが併し、今夜の校友會例會にと吉林からわざわざ馳付けて呉れた青山清、西野義輝の二君に新人神田啓夫君、川瀬年信君の出席を得たことは、感激し大いに意

を強ふたものである、料理の終つた頃を見計らつて第一回の發表會として意義深い今宵の擔當者の紹介に移ると、やおら立ち上つた板垣君、先づ持參のパンフレットを配布して開口する。演題は「電電の使命」要旨は電電事情と言ふ前置きから滿洲に住む我々が日常生活に於て電報を打ち、ラヂオを聞き三錢の料金を拂つて利用する電話の總元締たる滿洲電信電話株式會社が如何なる趣旨に依つて創設せられたか。日本・滿洲・軍・民間を通じて國策的に如何なる役割を演じたか、滿洲事變を経ての創業が今次支那事變に於て如何なる新使命を課せられたかを話し、日滿共同の二重國籍を有し兩國間の條約によつて設立せられた特種法人たる電電會社の法理學的解釋に於ては、創業當時設立委員に擧げられた、元學長松本泰治博士の解釋、二重國籍の歴史は韓國合併當時の現「東拓」等々法理的解釋に我々に好個の實料を提供される等興味深く語られ、認識不足の我々の滿洲通信、電話放送の殻を打ち破つて下さつたことは實に得難い講演であつた。

講演の終つた後各自の質問に移つたが、因みに同講師は電電の電話部所屬の俊才であり、滿洲電話の權威であるが、講演の中にも質問の中にも電話の出なかつたことは大いに残念だつた。

次いで吉林よりの青山、西野兩君の支部に對する感想、新人神田、川瀬兩君の自己紹介を行ひ、幹事側より熱心にも旅行中の大同學院の松田、中村、孫三君が連名で安東より例會に寄せた「出席出來ぬ、御盛會を祈る」の電報を披露して一同を感激させ午後九時實に和氣霽々裡に散會する。

今宵の例會は數に於ては決して新人及び遠來の客を

満足させることは出来なかつたと思ふが、例會の處について流れる校友會の何時も乍らの落ち付きある、好ましい雰圍氣をこそ、十二分にたんのをして貰へたと信ずる。

會場に當てた大洋軒は、千里山の以前の豫科校會でのお馴染の大阪の大洋軒食堂だと聞かされたことも、例會を回顧的に仕向けた愉快なニュースだつたことを御眞實でなしに紹介して置く。

- 當日の出席者
- 青山 清 西野 義輝 神田 哲夫 川瀬 年信
 - 藤田 藤一 板垣 進吾 光井 章雄 三宅 良孝
 - 佐藤 丈夫

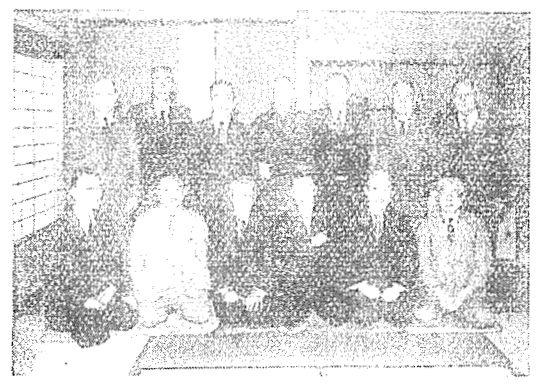
尼崎支部

第二回總會を去る十一月廿五日午後五時より甲子園ホテルに於て開催した。來賓伊丹區裁判所監督判事佐藤清氏、伊丹町長深川重義氏並に加藤教授、森川太郎教授外二十七名出席し、松尾支部長の開會の辭について祝電披露あり、天野常任幹事より公務の大要を報告して開宴、天野氏指命の下に佐藤判事、森川教授、大谷幹事長、黒田常任幹事、福田幹事、吉田敬治、柴田保、小笠原延彌、小村幹事の諸氏交々積習談等に熱辯を揮ひ、満場時に拍手起り、氣焔を揚げ、佐藤判事の發聲にて母校關西大學の高歳を三唱し、斯くて盛會裡に午後八時頃閉會した。

- 出席者 來賓 佐藤清 深川重義 加藤金次郎
會 員
森川 太郎 松尾 高一 瓜 惣太郎 内田 政一

三七會

明治三十七年關西法律學校出身者を以て組織する三七會に在りては本年十一月二十六日午後四時より、天王寺區上六、やまと割烹店に於て懇親會を催し、村尾靜明氏發起人を代表して、挨拶を述べ開宴、一同歡を盡して午後九時散會したり。當日の出席者の氏名左の如し。(寫眞は當夜の記念撮影)



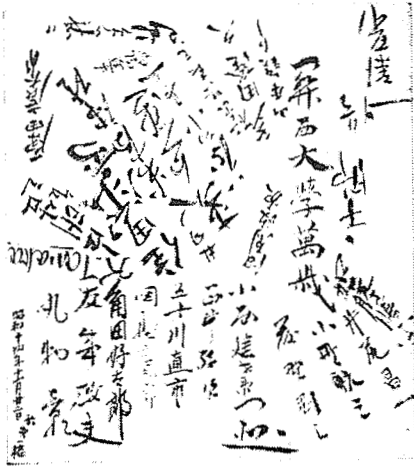
- 鳴川 靜太郎
- 豊岡 正芳
- 赤坂 惠龍
- 村尾 靜明
- 寺西 齊造
- 兼松 謙太郎
- 小谷 常英
- 内藤 正剛
- 西山 儀助
- 深川 重義
- 吉岡 達男
- 田中 三喜藏
- 西浦 爲次郎

神戸市役所關大俱樂部

十一月二十二日午後五時阪急會館二階第一樓に於て神戸市役所關大俱樂部秋季大會が催された、過般縣會議員に當選された特別會員五十川直市先生及び、高文司法科の難關を弱冠を以て美事征服した會員丸物彰君を迎へての祝賀會を兼ね、集ふ者三十名、調査課藤野君の開會の挨拶に始まり、皇軍將士及護國の英靈に對し感謝の黙禱を捧げ、小西會長の挨拶に次いで正井專門部長學校の情勢に就いて報告せられ、武田先生學校關係戦歿者約七十名を算する旨述べられたのには、學校の盛大を思ふと同時に、國に殉じたる者多きを思ひ感慨一入なるものがあつた。五十川先生其他來賓の御挨拶の後、丸物君の挨拶、馬場君の歸還報告あり、會食に移り和氣藹々裡に八時半散會した。

當日出席者左の通

來賓 正井敬次、武田藏之助、五十川直市、原田鹿



大郎の諸先生

岡野重三郎、角田好太郎の諸氏

會 長 小西建左衛門

印刷所長 友成政夫

(調査課)藤野剛三、(會計課)朝倉祐二、荒井精一、

加藤勝平、(財務課)米富康雄(教育部庶務課)、井尻

昌一、(經理部用度課)松島與喜三、(用地課)山本鎮

郎、(港灣課)小野清、(市民病院)馬場達平

(離區役所)出口清一、(葦合區役所)平野浩、河原政

次、(神戸區役所)安西信正、多田隆久、(林田區役

所)森且盛、金台三、藤原忠、住田彌高、田中諫吉

(湊區役所)丸物彰

關西大學神戸會

兵庫縣下に居住又は勤務する者の相互援助、相互親睦を目的とする吾關西大學神戸會は去る十月七日母校より本莊鐵次郎教授の御來會を希ひ第一回發會式を神戸新開地「大安」に於て開催す。

母校を卒へて諸襟服から離れて初の顔合せとして「ヤア」「オー」と互に友人の話させはなつかしの學生時代の事等に話の花を咲かせ、何某は何處の會社、何某は何處と互に昔話に時を過し、和氣藹々として盡くなく話はそれからそれからへと漚もなく續き、愉快な幾時間を一瞬の如く過し、最後に學歌、應援歌を高唱して散會す、尙兵庫縣下に居住又は勤務せられる先輩諸氏は吾關大!!! 母校の爲、舊友を忘れぬ爲め此神戸會を吾等の親睦の會たらしめんが爲御入會、御援助されんことを御希望します。尙會費は年六圓であります。假事務所 神戸市神戸區播磨町一六

灘津海運商會内 酒 井 政 之

當日の出席者



青 声 會

日本電方株式會社本社在勤者を以て組織せる青声會は今度新に迎へた正木公雄氏歡迎、應召中の森田三三氏凱旋の祝賀を兼ね例會を十二月十三日午後五時半より北澤江「白樂天」にて開催、茲一、二年來先輩諸氏相次で去り、いささか寂寥の感を抱かしむるものあつたが、集つてみると仲々潑刺たるもの、新に大先輩を加へて關大と、にありの意氣愈々旺、曩に凱旋の澤田捨次郎氏の第一線談あり、森田三三氏の病院勤務のいつはらざる體験談を中心に國民としては勿論我々關大同志のより以上の團結を誓ひつつ和氣藹々裡に午後九時半散會した。

- 山 村 (先輩)
- 淺 利 義 文
- 梶 川 義 臣
- 佐 藤 嘉 郎
- 高 見 壽 之
- 酒 井 政 之
- 石 川 浩
- 秋 山 幸 正
- 橋 本 秀 春
- 川 崎 武 雄
- 井 上 剛 一

參加者

正木 公雄(大八、大商) 加茂 實(大四、專商)
 久保田直敏(大五、大商) 北川 良久(大五、專商)
 澤田捨次郎(昭四、大法) 稻留 秀穂(昭一、七、大專法)
 森田 三三(昭八、專三商) 市島 正雄(昭八、專二商)
 秋山 靜吾(昭三、專三商) 今井 康兼(昭一、四、大經)
 大浦 徳壽(昭四、專三商) 井畑 志信(昭四、專二商)

會員消息

藤田 若水君(推) 廣島縣選出代議士にて今度
 廣島市長に就任せられた。
 本田 武藏君(大六、專法) 松江地方裁判所判事、住所
 は松江市北田町三二
 磯野 充賀君(大七、專法) 富山縣上新川郡堀川町西田
 地方一三三に轉居
 長島重五郎君(大二三專法) 西區役所團體係より港區役
 所督稅係長に轉任
 井阪 孝一君(大二三專經) 昭和十四年八月廿四日逝去
 遺族は旭區生江町六五三、井阪多津子氏
 中野 敬三氏(大二三專商) 昭和十四年十一月二日逝去
 遺族は此花區秀野町三二、中野一枝氏
 芝 信雄君(大十五專法) 廣島市白鳥九軒町九六
 小椋 徹藏君(昭二、專法) 警部補、玉造署より市岡署
 へ轉任
 笠井 義延君(昭二、專法) 西淀川區役所出張所團體係
 長に轉任
 中橋 徳藏君(昭三、專商) 川西航空機會社に勤務
 松本 捨吉君(昭三、專商) 警部補に任じ、中津署より

戒署へ

渡邊芳太郎君(昭四、專法) 東淀川區役所督稅係長に
 山本武次郎君(昭四、專法) 警部補に任じ、戒署より玉
 造署へ
 東 修君(昭四、專法) 北京西長安街中華民團臨時
 政府建設總署に勤務
 古川 親君(昭五、大法) 警部補に任じ、堺署より經
 濟保安課へ
 谷 源治君(昭五、專法) 警部補に任じ、市岡署より
 經濟保安課へ
 三谷 久男君(昭六、大法) 警部補に任じ、鶴橋署より



南嶺總領事野牧君(推)より一月二十六日厚和總領事館より
 當り南嶺領事館に轉任仕候、當り南嶺領事館より一月二十
 六年同日より一十一年申候を覚えをさし候一木一誠之有に地の勤在年六滿

戦線よだり

小野利夫 (昭六專法)

想ひ出懐しい冬が参りました。お別れ當時の寒さは
 實に凜烈たるものでした。その後は御無沙汰致して居
 りますが、お變りはありませんか、お伺ひ申上げます
 扱不肖の所屬致して居りました羽中田部隊はその業續
 漸く相成つて、去る〇〇日芽出度凱旋致しました。が
 然し不肖茲に感ずる所あつて、依然此の大陸に踏止ま
 り、微力を捧げてみ度く、決然華北交通株式會社へ入
 社致しました。部隊引上げ後は矢張り徐州に勤務が指
 定さるゝ事と思つて居りました所、實現は幸にも豫想
 通り参りませす「濟南鐵路局輸送處運轉科」に勤務致
 す事になりました。内地に在る間は大へんにお世話に
 になりました。而してその報恩の一端をも爲し得ずして
 此の遼隔の地に離れ来る事を甚だ遺憾に存じますが、
 此れも所謂時勢の爲せる業として何卒御寛容願ひます
 (下略) (一四、二一、七)

北支濟南市四大馬路緯八路一三八番地

大田義章 (昭十二專一法)

(前略) 先輩諸兄の御奮闘され護國の鬼と化せられた
 忠靈塔祀祭者の御冥福を祈ると共に益々抗日分子に鐵
 鎗を下すべく堅く決意して居ります。此度長期の討伐
 より歸つて参りました。山西の奥地は酷寒で此度始め
 てよく歌にある鏡に氷の花が咲くのを見、眉も口髭も
 眞白になり、鼻の穴など凍り息も自由に出来ませんで
 したが元氣一杯天嶼を恃んで躊躇する共産軍を殲滅し
 て元氣に歸つて参りました。この酷寒なので敵より凍

經濟保安課へ

八木 正一君(昭六 專法) 警部補に任じ、保安課より

九條署へ

島橋 良一君(昭六 專法) 警部補に任じ、特高課今福署に轉任

片田 彰夫君(昭七 大法) 中河内郡八尾町佐野八一四

泉本 正隆君(昭七 專法) 警部補に任じ、警務課より今

宮署へ

伊東 順一君(昭八 專一法) 昭和精機工業會社に入社庶

務部勤務、住所は東淀川區十三東ノ町三ノ六五

渡邊 明夫君(昭八 專二法) 大阪毎日新聞社大阪本社よ

り同社東京駐在となる

吉田 堅君(昭九 大法) 警部補に任じ、特高課より

市岡署へ

田中 義雄君(昭九 大法) 滿洲國鞍山市南三番町三九

ノ二に現任

神谷 弘君(昭九 專二法) 宇都宮聯隊入營中の處この

程除隊、大阪市役所人事課に復職された

江崎 光二君(昭十 大法) 警部補に任じ新町署より經

濟保安課へ

荒木專太郎君(昭十 大法) 警部補に任じ、十三署より

今福署へ

新本 範夫君(昭十 專一經) 去る八月三十日滿蒙國境に

て名譽の戦死を遂げらる

武田 清隆君(昭十 專一商) 八月二十九日ノムハンの戦

闘で壯烈な戦死を遂げられた。在學中は劍道三段

の猛者として學生武道界に名を馳せ、卒業後は家

業新聞販賣に従事してゐた。出征に際し各方面か

らの餞別は軍用機納資金として國防献金し、陸

海軍大臣より感謝狀が届けられてゐる。遺族は別

府市中町(父) 武田荒太氏

中村 寛一君(昭十 專二法) 警部補に任じ、戎署より經

濟保安課へ轉任

西野 義輝君(昭十 專二法) 東洋紡績會社より滿洲國吉林

市外哈達灣の東洋製麻加工會社吉林工場に轉勤

松村 勇君(昭十 專一法) 泉北郡高石町羽衣六二二

ノ二六に移轉

寺居 大士君(昭十二 專二法) 三和と改姓、本年度高

文司法科試験に合格現在九州帝大法文學部在學

前田 研吉君(昭十三 大法) 龍山松澤部隊坂本隊より豐

橋陸軍豫備士官學校歩兵生徒隊第四中隊第二區隊に轉

井村 智昭君(昭十三 專二法) 堺市六條通四ノ三〇

河北 正義君(昭十三 專二法) 大阪通信局を辭し北京西

長安街三號、華北電信電話會社に轉勤

前田 康治君(昭十三 專二法) 上海華中鐵道會社に入社

本社業務部輸送課に勤務、住所は上海閘北永興路

同安坊一四一號

島津 徳三君(昭十三 專二商) 住吉區役所戶籍係長に轉

ぜらる

福田 作造君(昭十四 專二商) 東淀川區中津本通一、東

西電球會社大阪支社に勤務

高級國産門



二十段家書

大阪市難波御堂筋東入

電話四四九七

傷にかゝるのを恐れました。お蔭で負傷も痺傷にもかからず無事でしたから他事乍ら御休心下さいませ。早いものでですね、もうすぐ職捷に輝く新春を迎へますね。戦地で二度目の正月を迎へます。(後略)

福島正恒 (昭十三 專一商)

(前略) 初冬の候母校に於かれても皆様益々御元氣の事と存じます。小生も相變らず軍務に勵んでゐます故他事乍ら御休神下さい。さて今度は學報御送り下さい厚く御禮申します。遠い此處にて母校よりの便りに接する事は何よりうれしく在校當時が偲はれ毎日繰返し拜見してゐます。今年には此處も割に暖かにて、一層元氣にて校名を恥かしめざる様努力いたす考へです。(後略)

増山榮夫 (專二法三在學)

拜啓 母校教授職員各位には愈々御清榮の御事と奉賀候陳者小生儀も其後御蔭様にて無事元氣にて軍務に精勵罷在候間乍他事御放念被下度願上候小生警備地點は江南の大平野故昨今蕭條たる風景現出し雄大なる風光眞に島國にては見られざるもの有之候敵も昨今は相當活潑に蠢動せしも絶えざる討伐等に依り最近は漸次影をひそめて居候間御安心被下度候

藤本尚平 (專二法二在學)

(前略) 先般は早速學報御送付下さいまして誠に有難う御座居ました。母校の益々發展して行く様、戦線より歸りて驚いてゐます。前線にても度々校友と會ふ機會を得ました。(中略) 尙大阪金満分院より當道陸軍病院に轉送になりました。(一一、一二、一三)

姫路市姫路陸軍病院姫山分院第二内科十四番ノ西

ハイラル通信

山中木太

下頸に氷の房を吊した馬二頭、毛と皮に全身を包まれた御者に身を委するは美しいロシア娘と彼氏らしい川面の上を悠々と彼方に去る。十一月に入ると急速に名物の酷寒が訪れる。それはもう北満の人々にとつては或る懐しみを呼ぶらしい。皆ながしの金を貯へそして冬に備へてをる。街は全く毛と皮の人間です。かうした風景は大阪にも東京にも見られぬことを思ひ内心自慢です。

扱て皆様は御元氣でせうね。内地にも冬は小さいながらも訪れ皆様も其の支度に御多忙と存じますが、平素は一向に御音信を致しませず相済まぬことゝ私に恐縮して居ります。御便こそは致しませんが毎日どなたかを想ひ泛へてをります。時にはかうしたたはげ言でも申送ればよいのですが、何分忙しい毎日です。貧乏暇なしは滿洲にも通用します。

かうした私に時折手紙位のは寄越せ。返事が簡單だ不親切だ、約束違ひだとか又君の態度に忠告するとかそれは時に怒り、突ひ又考へる御叱言です。私はこれを心から有難く拜受します。皆私を思つて下さるがためですから、長い長い手紙、青春の血を綴り込まれた御便り、どうして無氣に放れますか。只私は忙しい爲めに、明日の仕事に活きるが爲めに御無沙汰となつた迄です。秘書官でも持たぬ限り代書も成らずとか理窟で通せば、當地の名物(結凍)になる恐れがありますから意を決して何か認むる事にしました。が御存知の

如く文も文字も下手ですから何も出来ません。自分の考では折角北西滿洲のハイラル迄やつて来たのですから何か「まとまつた」ものを作ることが出来ると思つて赴任時から思付いてをりますが、未だにそれなりませぬ何れ正月頃にも成れば當地の特殊地帯を研究して學友諸兄位には送る心算です。

今度は單に元氣であると思ふ御手紙にします。それには色々材料もありますが、私が十年來の日記を引き抜くことが時間を要せず面白いのではないかと獨り定めして取掛りました。これも都合上當地の分に致します。試みに私の足跡を要記しますと左記の通りであります。

- 大連①—奉天①—新京—公主嶺③—ハルビン⑥
 - チチハル③—克山①—海倫①—綏化①—龍江①
 - 牡丹江①—東京城①—圖們①—吉林①—新京
 - 公主嶺③—ハイラル—滿洲里①—ハイラル
- (○ハ度數)

八月十二日 (土) 晴

苦しい三等寢臺車は寝めなかつた。七時三十分ハルビン驛下車。ライスカレー一皿を頂く。眼のハルビンは淋しいものだ。十時二十分改札、フオームに於て故伊藤公の遺難碑を拜む。同三十分窓々國際列車は國境に向け動き出す氣笛を鳴らす。第一線の國境都市に赴任する自分は曾つてない昂奮を知る。玄海灘を共にした日本刀が何となく力強い。座席を何氣なく探す時どうも見た奴だと思つてをると又奴さんが来る。よく見ると江口君ではないか。關大同窓の江口君が重要書類?を詰めた鞆を抱いてうろついてをる。うれしいやら

陸軍主計中尉 木村仁吉 (昭七 大法)

(前略) 上海附近の激戦を振出しとして南京附近の攻略戦、引續いて徐州會戦に参加しました。此の會戦中孫坪の戦鬪にて敵迫撃砲弾のため負傷、傷癒えて後原隊復歸、ついで武漢攻略戦に奮闘、常に軍推進力たる給養補給のため努力しました。十四年〇月部隊と共に内地歸還一先召集解除となりました。只今次期の召集を待ちつゝ一健康増進をはかつておます。

星川清典 (昭十二 第一師)

(前略) 大陸にも毛皮の防寒帽が見られる様になりました。本日は學報第七十三號いただき感謝に耐へません。吾々の同窓生の中には幾多北支中支或は南支に活躍し東亞建設に努力して居りますが母校より送られるニュースをむさぼり讀み共に喜んでゐる事と存じます自分の屬する〇〇隊には今野榮介君(昭十二、專一法)が居り一緒に元氣にやつて居ります。今後共一層奮闘努力する覺悟で御座います。(一四、一一、一七)

原 豐 (專一法一在學)

暑い、南支にも秋冷が訪れて参り大分浸ぎ良くなつて参りました。相變らず元氣一杯御奉公致しておますから何卒御休心下さい。去月十二日は私等の一生涯忘れられない南支奇襲藏前上陸一周年記念日、二十一日は廣東攻略記念日にて我が部隊に於ては記念式を舉行し又角力、演藝、野球各大會が催され、懐しい祖國より態々慰問演藝團が來訪されるとか、各種の記念行事が催されましたが、過去一年間を顧れば、實に感慨無量です。其の間何の病氣もせず又何の事故もなく無事に御奉行出来得るのも之れ偏に皆様方の御援助と且又武運長久祈願の外ならぬと確信致しておます。(後略)

不可思議やら。「やあー」「おー」で早速食堂車に移る。お五が大陸に行くことは知つてをうた仲だ。それが今日迄連絡が付かずであつた。廣い滿洲も狭いものだと異口同音、大いに奇遇を祝し乾盃する。私達は大陸の抱負と信念で夢中であつた。そして關大の話、友人の話、大阪の噂、海水浴の話、田舎の習慣等盡くるを知らなかつたが、遂に○○で江口君と別れを惜しむ。君は今産業部屬官濱江省開拓係詰として各地に活躍してゐるらしい。今日はハルビンに○○を忘れ兼ね出張したとひがまれたが、とまれ君は本年末衣替をして名譽ある國家の干城として入營する筈だ。多幸を祈つてゐる。

富拉爾基鐵橋を過ぎ次第に夜となる、興安嶺は何時越したか、○○の検査が始まる。向ひのロシア人が大きな手で集めてバスボートを探してをる。スパイは何處に潜むか解らぬ。

八月十三日 (日) 晴

ハイラルが近付く。夜は明けた。霧のあるあたりは何となく重たい様だ。検査を受け札を渡し事變下の都に第一歩を印す。職員三名が馬車をもつて出迎へてをる。ノモンハンも直ぐ彼方だと説明して呉れる。○○が飛び往く、△△が馳驅する、○○が耳を驚かす然し術は案外靜穩である。時刻になれば店も開く、市民は平常と變らぬ。こゝが四十里手前の國境都市かと驚嘆之を久しうする。皇軍なればこそとつくづく思ふ。今更乍ら我々の兵隊さんに感謝する。私を見る兵隊さんも元氣一杯だ。今日は○○ホテルに落着く。草原の彼方に赤い夕陽は沈む。そこに大きな○○機が數臺浮ぶあれを思ひこれを考へ無量なる感慨である。歡迎會も

辭退してベツトに上つたのは十一時頃か。

——八月十五日より十一月二十三日まで省略——

十一月二十四日 (金) 晴後雪

知人のロシア人が、日本人が澤山来て物價が騰ると云ふ。之が説明納得をさすに下手な日本語で大分苦しむ彼等に何事も承知さすことは大切だと思ふ。

今夜に限らずであるが自分は滿洲の青年層及女に付て何故當局は敢て意を拂はぬのかと。女を中心として家から起す。矢張り夫には先づ働かず事だ。一日中家に眠る主婦だから其處に何が育つか。又滿洲の青年は死んでをる。青年の活動力がない。之は重大な事だ。

過去に於て數回青年運動は起つたらしいが、それは極めて地方的主義的存在に終つたらしい。協和會等も青年に若干關心を持ち始めては居るが、今少し自治的觀念の養育に當るべきではなからうか。それには勿論在滿日本青年の挺身的努力と協和的奉仕が必要だ。滿洲の官吏は日本青年が多い。その官吏は稍もすると建國の精神を胃潰する輩だ。自分は常に水の如く高きより低きに流れる亞細亞青年の一團でなければならぬと信ずる。

十一月二十六日 (日) 雪

配水車は馬も車もタンクも氷の化物の様だ。たばこの吸口が凍つて火も消える。口蓋が皆白いロシア人の友がダンスを習ふ師を紹介して呉れる。彼女は私にとり餘りにも美しく親切だ。

今日は日曜である。私は常に日記を日記らしく記入することを思ふのに只單に一日の行動の描寫に終ることを元且毎に悔いる。尤も日記の中で上述したものは八方美人をビツクアップしたものであるから、これが

私の日記の代表的記事とはさら／＼思つて頂きたくない。

扱て私は今日の一日を費して結語を作る心算でペンをとる。私は在滿の青年である。然し青年私の青年は心通りのでない青年の自分が青年を語る。甚だ奇妙なものになるが、私は滿洲人となるに表支關の大連より上る。今日迄相當の方や又先輩知人等に會ひ必ず何か耳にした、又自分も語つた。その清算とでも云ふべきか。甚だ高言であると自分が危惧しつゝ……多くの青年が學窓を出て海を渡つて滿洲に來る。夫々壯圖を胸に秘めて親しい人々に送別の宴を張られ見送られ海を越えて滿洲に來る。其壯圖其光景今更に昨日の如くに感ずる人もあらうし、又來滿數年身邊の内外を顧みて眞に今昔の感に堪へぬ人もあらう。其等の事が今更遠い過去の事のように感ずる人も相當あると思ふ。こんな心算で或はこんな男になる筈で來たのではなかつたと感慨新な人も絶無とは言へまい。

之が故國なら善い意味に於ても悪い意味に於ても幾多の人の眼の監視がある。肉親や先輩や同僚や友人の温い正しい指導や監護や慰藉や激勵がある。或は出身學校や郷土の人々への氣遣もあれば、又第一就いてゐる職を失ふまいとか、或は又夫を一生の生活の糧としてそれこそ競々として唯上役の顔を見て事々に御無理御尤と云ふ風に低頭平身只我身を立て家を成さうと云ふ眞に卑屈な風も行はれてをるかも知れない。其處には青年を益する環境もあれば又青年を害する環境もある。之ではいかんと云ふので煮え詰つた様な世の中を此際新しく伸ぶる者を妨げてをる永年の因襲や社會事情を革新しようと思ふ空氣も既に充満してをる故國の

有様ではなからうか？

兎に角現在の日本では青年は社會の部屋位であるが満洲はさうでない。新舊の社會の差がある。一長一短ではあるが約言すれば満洲の方が比較にならぬ程青年の生きる環境に恵まれて居ることは餘りにも明白な事と思ふ。殊にこれからの新日本を背負ふべき青年の養成地としては眞に最上好適なことは本より言を要しない。然し日本に於て青年を自重せしむべき前述幾多の有過ぎる位あつて勢ひ青年を卑屈にしたり其の伸びを双葉の中に止めさへもする事を慮れしめる様な各種各様な社會事情は満洲には存在しない。一は東縛であつたり呼吸困難を覚えしむる様な状況にあり他の一は奔放自墮落を結果とする處れを持つてをる。同じ青年でも一は部屋住を強ひられ一は來滿するや否や大人として自由と發言を興へられてをる。一は嫌と云ふ程な善惡種々な社會嫉を蒙り他は微塵もそれが無い。落ち行く先は自由と發言を認められずに沒理想になるか自由を認められて沒理想になるか。原因は正反對ではあるが、沒理想になる點に於ては矢張り同じ危険性を持つ。云ふ迄もなく青年は清純であり又未來は彼のものである。殊に満洲に來る日本人は種々な意味に於て大陸の開拓者なのである。分けても青年こそ次代の大陸日本の負荷者であり、而も此處満洲國はこれから築かれるのである。其事を想へば満洲に於ける日本青年の現況は今のまゝでよいのか。云はば宿なしの野良犬の様な現況に放置されて居るのではあるまいか。又彼等青年自身が果して故國を後にした壯圖を常に堅持し國家に對する身の重き使命を自覺し使命遂行を期して日々の營を營むの強い意志と分けても自尊心と自重心

を持ち續けてをるのであらう？ 滿洲に於ける青年の自由を濫用し折角の來滿身を汚し身を墮す危険にさらされて居ないだらうか？ 分けても色々な眼の光つて居ないことをよい事として青年時の修養を怠り實力の涵養を忘れ、悪友や悪先輩や悪上役に誘はれて沒理想な安易享樂を事とする大人ならざる大人になつては居ない？ 政府でも會社でも青年の訓練とか練成とか色々な事が行はれてをる。然し夫等は青年に正大な志を養ひ分けても彼等に生涯の感銘を興へるだけのそれだけの正義と仁愛とを憧憬して若き血汐の沸つて居る彼等青年のハートを眞正面から射抜いて居るであらう？

青年を野育ちにしてをいて自らは個人的な利福に囚へられ薄酒に酔ふたり徒らに金を貯めたり事々しく大言壯語したりしてをつてよいであらう？ 夫汝の若者は何處へ行かうとするの？ 勿論満洲の日本青年が全部斯くあると云ふものでもない、之が主流と斷ずるものではないが、自分はこれが事實無根に非ざることを誓ふ。又日本青年が全部部屋住と斷じた理ではない。

日本青年が戰時體制下に在りて又斯くあるべきではないか。それは筆者の翼ふ所であつて現實は昭和十四年の三月即ち余が神戸を發つた後約半歳餘差程青年の自由と發言が變つてをらぬ事も想像出来る。自分は在滿日本青年の一員であるが故に斯く觀來る。最後に皆様の御健勝を祈つて御別れとします。

「冬のハイラル——暮れる

外にや駱駝の足の音」(ハイラル小唄)

滿洲國與安北省海拉爾、海拉爾市金融合作社にて

——大連支部「秀麗」より——
校友會名を統一せよ

校友會名の統一については吾々は昭和十一年八月以來之を提唱し、來滿せられたる母校の先生達には必ず大連支部の總意として會名統一を要望して來た。又全國の校友會支部にも一度呼びかけては見たが大した反響もなく中々實現の運びとならないことは、吾々の努力、熱の足りなさを物語るものではあらうが誠に遺憾なことである。

明治十九年創立の關西大學が未だ統一せられた會名を有せずに年々歳々區々たる小會名のみが殖えて行くことは、決して誇り得べきことではなく、寧ろ恥だとも云へる。打つて一丸となすべき團結の中心とも云ふべき校友會名すら、持ち得ずして、何が傳統五十年の歴史を誇る關大か、學校當局と云ひ、校友會本部と云ひ學生と云ひ、校友と云ひ、よくもこんなに熱のない意氣地無しが揃つて來たものだ。こんなことでは將來が思ひやられる。

母校を愛し更に將來の發展を祈る誠心があるならば吾々は茲に猛奮一番、先づ校友會名の統一に盡力し、之が實現に邁進し様ではないか。會名を統一したとて直ちに發展するものではないが一丸的に進んでゆく處に發展性の基礎が培れて行くのだ。幸ひなるかな明年は紀元二千六百年の盛典を擧げ得る年である。母校の記念事業の一つとして、校友會名統一を實現せられんことを再び學校當局並に全國校友に提言して各位の三省を促すものである。

千里山法律學會

十一月十四日堺刑務所見學

刑法が犯人のマグナカルタであるならば刑罰、従つて亦その執行は之れを担保しなければならぬ筈である。刑の確定手續は刑事訴訟法に準據し、その審判は原則として公開せられ且少くとも犯人の地位は検事と對等に置かれてゐる。然るに刑の執行はあの高い塀の中に隔絶され一般社會人はその全貌を知る由もない、従つて其處に關心を發するは蓋し獨り刑事學を學んだ者のみではないであらう。

於茲吾法律學會當局の理解ある御取計ひに依り堺刑務所を會員以外の希望者も募り百三十一名が見學した。「百聞は一見に如かず」「改過遷善」の行刑に於ける千古不變の根本思想は實に嬉しい迄に徹底され、あらゆる善道の爲めのゴスターが貼付せられ刑官亦身を以て囚人の善道指導に當られてゐた。刑法が犯人のマグナカルタであると云ふことを茲に深く實見し、吾々日頃の杞憂も一蹴し更らに積極的に吾々の行刑に對する觀念の誤謬を訂して呉れた事は當局に對し厚い感謝の意を表すると共に何物にも代へ難

い收獲であつた。

十一月二十五日 座談會

自午後五時於天五「光」

本會より疊に高文をパスした法覺、吳兩君の祝賀會を兼ねての座談會を開く。會する者昭和十一年度合格者中村先輩を加へて二十五名、兩君の前途を祝福すると共に種々貴重な體験を聞き益々研究に努力せんとするの堅き決意を固め和氣藹々裡に八時半散會。

十二月六日 例會

自午後三時於第三教室

一、科刑と罪刑法定主義 吳 寅生君
「法律なければ犯罪なく、法律なければ刑罰なし」との罪刑法定主義の沿革的文化的役割並に之れに對する現在に於ける立法の動搖を述べ、更にその展望に對し君日頃抱負の意見を織混ぜ研鑽の蘊蓄を傾けた、凡ゆる文獻を渉獵しての研究發表なりし爲め非常に示唆多きものであつた。

二、義務の履行と犯罪の成立

法覺豊松君

大審院判例を批判したもので、同君は義務の履行はそれが苟くとも義務の履行で

ある限り假令違法性を具有するもそれが爲めに犯罪の成立を來すものにあらざる旨を強調し同一行爲が受ける價値の相對性によつて決すべき所以を緻密なる論理の法則に従ひ進め、結論に於て大審院判例を支持したがその理由に於て君獨自の見解を披瀝されたことは誠に嬉しい限りであつた。

次年度本會役員氏名左の如し

- 幹事長 吳 寅生
- 副幹事長 水 間 通 夫
- 會計幹事 竹 内 徳 次 郎
- 幹 事 松 井 正 男
- 幹 事 溝 川 一 清
- 以 上

經友會總會

經友會は去る十一月六日の十四年度最終委員會の決議を經、神戸會長の召集により同十一月三十日總會を開催左の事項を審議承認を得た。

一、經友會會則補正

一、十四年度會計報告並ニ事業報告

一、役員改選

尙十五年度役員次の如し

- 委員長 石井日出男
- 副委員長 古田久雄
- 副委員長 伊丹正憲

- 總務部長 李 鐘 浩
 - 研究部長 李 善 熙
 - 編輯部長 藤 井 吉 郎
 - 事業部長 松 岡 良 直
- 神戸會長式辭

關西大學專門部二部經友會が今回會則に改正を加へ、役員の改選を行ひて攻學の征途に就かんとするは、私の最も欣快とするところでありまして、又私は諸君が多大の收獲を得らるべきことを冀ひ且つ祈るものであります。

ただ此際一言諸君に注意を促がさんとするは他ではありません。學問の世界は洪大無邊であつて、其の全體を究め、真理を把握するは決して容易の業ではないといふ一事であります。

然るに學に従ふ者、動もすれば或一の説に迷はされ、又之に捉はれ、或は自説を以て最高の極を究めたりとして、獨善の態度に陥るのであります、斯くの如くしては向上發展を期することは出来ませぬ。

經濟現象は多面的のものであり、且つ時と共に變遷しつゝもありますから、此の點から見ても一の説に拘泥して居ません、何時までも一の説に停滯して居てはなりません、特に研究の端緒に就いたばかりの學生諸君としては尙更であり諸君は謙讓の態度にて、出來るだけ廣く

諸説を尋ね、不斷の努力を續けることが最肝要であります。

終りに本學内に近時、攻學の機運の盛んとなりたることにつき、私は心からの満足を感じ、諸君の前途の多望なるべきを信じて疑はざるものであります。

研究發表會

○十月例會 去る十一月二日午後八時より、二十二號教室に於て研究發表會を開催、中川專任指導教授御出席の下に、堀經夫先生出題の『經濟學は今後如何に改正さるべきか』を論題として、經濟學科二年李善熙君の研究發表あり、出席者少數なるも質疑應答活潑をきわめ、冷秋の夜更くるも知らなかつた。

○十一月例會 十二月七日午後八時より前回は引續き二十二號教室に於て十一月例會を開催、論題は中川庸太郎先生出題の『世界經濟の觀點より日滿支經濟プロックを論ず』發表者は經濟學科三年新堀鐵麻治君、

經友會研究發表會は回を重ねる毎にその要領を得て、熱心なる論戦はまさに火花を散らし、專任指導教授中川先生の熱誠なる御指導の下に、いよゝ充實するを見る。

十一月例會はすでに寒氣激しく攻學の友は手足を凍らせつゝも、會の終了まで一人として席を立つ者はなかつた。

參 陵 會

第三次第十二回例會を十一月二十三日の佳日開催した。昭和十四年度最後の例會でもあり又終末總會をも左祖してか河村教授以下廿二名の會員が定刻九時京阪天滿驛に集合した。直に一路京都に車は輕く走る。午前十一時大津に到着、懇も遣らず直に一食堂に晝食を兼ね終末總會を開催、翌十五年度の新幹事發表、事務引繼を了した。

午後一時より第三十八代天智天皇山科陵を始め九十五代花園天皇十樂院上陵、八十代高倉天皇御清閑寺陵、七十九代六條天皇清閑寺陵、七十七代御白河天皇法住寺陵へと巡視する中天も吾々會員に崇高なる皇道精神の尊崇者に興した啓示でもあらうか、洵に天は高く秋空の清澄なる生氣を満喫させた。午後五時三十三間堂前にて解散した。

- 新幹事氏名
- | | | | |
|-----|----------|-----|----|
| 副會長 | 南部 | 總務 | 大西 |
| 會計 | 大谷 | 會計補 | 平尾 |
| 計畫 | 杉本 | 記錄 | 守田 |
| 庶務 | 守田 | 計畫補 | 中西 |
| 記錄補 | 原 | 庶務補 | 藤田 |
| 寫真 | 平野、神谷、玉井 | | |

千里山馬術部

十二月十日 第二回全日本綜合馬術競

技大會が甲子園、鳴尾競馬場、武庫川兩岸地區一帶の廣地域を使用して舉行せられ、前年度準優勝校たる本學は本年も卒業前の廣谷前主將及安藤新主將齋藤副將のむらの無い堅陣に優秀部馬朝陽號(アングロアラブ)大優勝(ハクニー)軍榮號(アングロアラブ)を以て出場、結局京都代表、京都帝大との決勝戦と成り終始白熱戦を展開、其間馬場馬術、障得飛越に於て軽く京都勢を一蹴し大阪の爲萬丈の氣を吐きしも野外騎乘に於て僅かにタイムにかゝり惜しくも第二位と成る。

千里山卓球部

○第二回三部(關大、關大一部専門部、關大二部専門部)對抗卓球試合は十一月十九日關大千里山にて舉行、關大優勝す。成績左の如し。

- | | | | |
|-----|---|-----|-----|
| 關大 | 1 | 關專一 | |
| 關專二 | 5 | 1 | 關專一 |
| 關大 | 4 | 3 | 關專二 |
- 出場選手 小川、西村、島崎、松尾、松本

○昭和十四年度秋季大阪學生卓球選手權大會は十二月三日浪速高校に於て舉行本學小川喜志雄(商三)西村公利(經二)組ダブルスの覇權を握る。成績左の如し。

准々決勝

- 准決勝
- | | | | |
|--------|---|---|--------|
| 小川(本學) | 2 | 0 | 石原(高登) |
| 西村(本學) | 2 | 0 | 森本(高登) |
| 小川(本學) | 2 | 0 | 村山(阪大) |
| 西村(本學) | 2 | 0 | 大西(阪大) |
| 本城(大齒) | 2 | 0 | 小谷(阪大) |
| 田中(大齒) | 2 | 0 | 岡本(阪大) |
- 決勝
- | | | | |
|--------|---|---|--------|
| 小川(本學) | 2 | 0 | 本城(大齒) |
| 西村(本學) | 2 | 0 | 田中(大齒) |
- 尚シダブルスに於て本學、小川喜志雄(商三)第四位に入賞す

柔 道 部

近時日支紛争に際してラヂオ、新聞紙上に於て絶えず諸君等は耳にしたり又日々よく見る事であらう。勇猛果敢なる働きと、舉國一致此の四字の精神こそよく今日の如き大日本帝國の基を礎き上げたのである。前線將兵の働きはこの精神の現れである。我等も連戦連勝の意氣ごみを以て吾等柔道部の譽れを擧げんとしてゐる。諸君もよく一刻も早く我が名ある關大専門部一部柔道部に入部され部員として大に活躍され速に柔道精神の理解と意氣旺盛な武道によつて吾等の來るべき第二の世界を建設しなければならぬ。又今後の運動は柔道を措て外に何物があるらう。

開國以來一度も外國より後指をさへれた事のなき我が國は實に祖先の方々が良く此の精神の理解の賜であらう。茲に於

て我等一同はよく勇猛果敢な此の運動、武道とこの柔道精神の理解とを諸君等に希望する次第であります。日本精神即ち武道精神也。

次に十五年度一部柔道部の新役員決定す。

- 主 將 大飼澄治(商二)
- 副 將 石村 巖(經一)
- マネジャー 綿谷敏雄(商二)
- 選手監督 大西二郎(商二)
- 記録係 岡本修三(商二)
- マネジャー補 木村敏定(經一)

大阪名古屋學生柔道聯盟主催、大毎後援第九回大阪對名古屋學生聯合柔道對抗戦と本年度から新たに京都學生柔道聯盟を加へ併行して大阪學生聯合軍對京都聯合軍との兩柔道對抗戦、十一月二十三日於甲子園假設道場 本校當番校

此の試合は各聯合軍三十名

我が部は大阪軍の爲に主將以下八名の大多数出場し大いに奮闘し我が部並に大阪軍の爲めに萬丈の氣を吐く。左記に我部の活躍を記す。

- 大阪軍の本學のみの戦 ○印勝
- 大阪軍 名古屋軍
- 望月(内股) (高工)谷川
- 望月(上四方) (名大)日下
- 望月(三角絞) (高商)田中
- 綿谷(肩固) (高商)木下

綿谷(引分) (高商)橋本
○木村(吊り込腰) (八高)榎本
木村(上四方) (高商)森本
大西(引分) (高商)森本

○石村(送り襟) (高工)吉川
石村(引分) (八高)股橋
大飼(引分) (高商)井上

八年振り大阪、名古屋に雪辱す。かくて九戦二勝六敗一引分と成る。

大阪軍拔勝者十名引分數二十負數九
名古屋軍拔勝者九名引分數二十負數十一

大阪軍大將同士にて勝、此の拔勝者十名中我が部は半數の五名の拔勝者を出した事は大阪軍の爲に大いに戦つた事を紙上に示す

大阪軍 ○京都軍

- 木村(十字逆) (龍大)笠置
 - 福島(引分) (三高)多田
 - 望月(十字逆) (藥専)原川
 - 大西(引分) (三高)横田
 - 綿谷(袈裟固) (同商)福島
 - 綿谷(三角逆) (谷大)塚田
 - 石村(引分) (谷大)塚田
 - 大飼(引分) (立大)富永
- 大阪軍再度の試合にて過勢を來たし強敵京都軍に不戦八人を殘し敗る。此の中にも大阪軍の拔勝者五名中我が部より一名出づるに又我が部が大阪軍の爲に大いに戦つたと言はねばなるまい。秋季大會

も牛ばすぎ昨年優勝せし大會は必ず連続優勝せんと粉骨粹身の練習をし柔道部史を飾り關西大學専門部の名聲を天下に輝かさん事を紙上に於て誓ふ。

北陸縣人會(專一)

福井、石川、富山の三縣出身者を以て組織し、同郷、近郷人相互の親睦をはかるを目的とする北陸縣人會例會は十一月二十三日(祭日)奈良に於て開催した。和田、里見兩先生、亦木(高三) 狐塚(經三) 古谷、齋藤作典、青木、井上(商三) 赤座(經三) 尾崎、伊藤(法三) 出席し午前九時半大軌上六を出發。秋色深い大和路を奈良に向つて急ぐ。昔なつかしい奈良の古都は何時行つても美しく奥ゆかしい。森閑とした奈良公園、角を落した可愛らしい鹿、歴史を物語る寺院、奈良を代表する大佛……が吾々に満悦感と與ふ。春日神社で新嘗祭の祭典の爲め勅使が參向中であつた。阿部仲麿をして「春日なる三笠の山に出でし月かも」と詠はしめた若草山の麓で秋色濃い山を眺めつつ食事をとる。出征中の本會先輩に各サインをして繪端書を送り武運の長久を祈る。かくて一同和氣満々の裡に意義深き例會を終へ午後五時歸阪す。

- 尚本會役員左の如し
- 名譽會長 和田先生、顧問 里見先生
- 會長 亦木哲英、會計 狐塚正雄

校友會費拂込者氏名 (其の九)

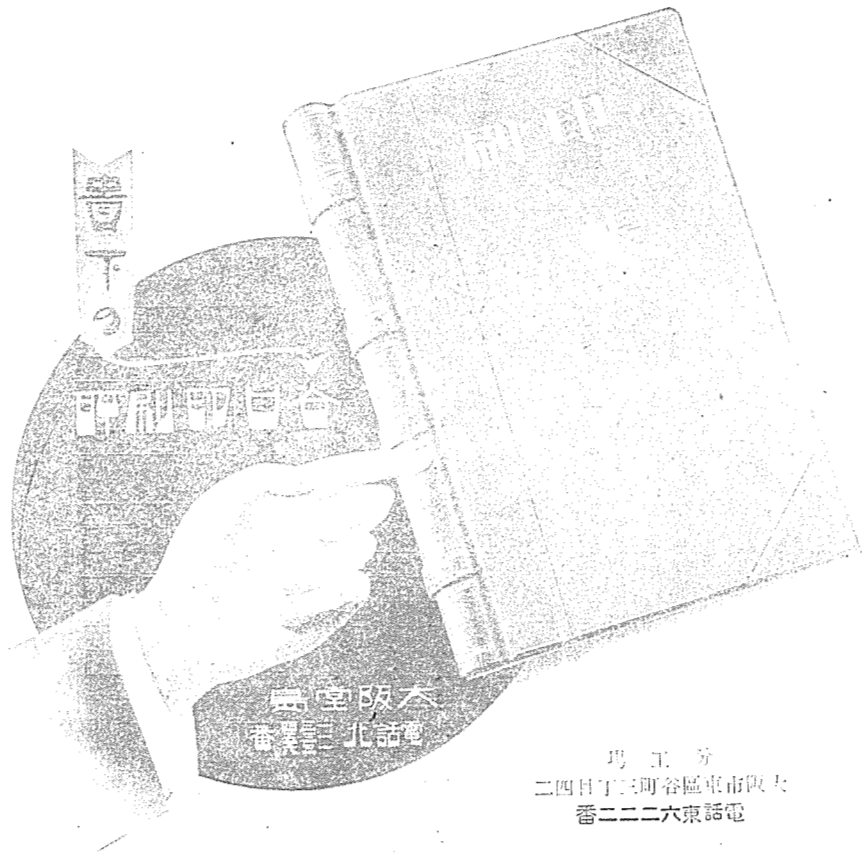
- 一時拂(金五拾圓) 松尾 高一
- 昭和十五年度(金三圓) 岩田浩太郎
- 昭和十四年度(金三圓) 乾 英一 佐藤 將 東 義夫
- 中村八十一 田中 仁 櫻井喜三
- 鈴木 周作 神戶 三郎 西田長左衛門
- 戸松 健吉 栗田 正行 岡田 實之
- 宇喜多景家 矢野 芳一 松岡 爲吉
- 眞鍋竹治郎 岩瀬 歳元 關 一郎
- 齋藏 湊 富川竹治郎 寺澤 眞喜
- 四辻 詮 佐藤 清 佐藤 末男
- 崎谷 三郎 三和田大士(以下次號)

大正十一年六月十五日創刊
昭和十四年十二月廿五日印刷
昭和十五年一月一日發行

大阪市長池田長柄中道三丁目十二番地
大阪市長池田長柄中道三丁目十二番地

編輯人 神屋敷 民藏
印刷所 谷口印刷所
發行所 關西大學學報局

關西大學
大阪市長池田長柄中道
本部電話 三三三九
專門部電話 二七六〇
播磨大阪 二七六五
千里山學舎 大阪 市外千里山
校務部 電話吹田四六一三



東京出版
電話三三三番

場工分
二四日丁三町谷區東市飯大
番二二二六東話電

辯護士 西本 寛 一 著

新 刊

新法現行會社の改造手續
による

四六判上製
定價壹圓
送料拾錢

新會社法はいよく來年一月一日から施行せられる。現行會社は總べて定められた期間内に改造しなければならぬ。改造を怠つたときは五百圓以下若しくは五千圓以下といふやうな大きな過料に處せられなければならない。然らばどこをどう改造するか、それは新法を熟讀してもさうたやすくは理解出来るものではない。本書はこれ等の點に關する唯一の解決書である。

目次

はしがき 一章 合名會社・合資會社 一節 定款の変更 二款 業務執行社員・代表社員の定 三款 競業の禁止 二節 登記 一款 出資履行の登記 二款 法定清算人の登記

二章 株式會社・株式合資會社 一節 定款の変更 一款 公告方法 二款 株式 一項 數種の株式の發行 一、優先株式 二、普通株式 三、後配株式 四、混合株式 五、無議決權株式 六、轉換株式 二項 株式譲渡の制限又は株式の裏書禁止 三項 株式の名義書換 四項 株式の再發行 三款 株主總會 一項 總會の招集 二項 總會開催地 三項 議長 四項 議決權の剝奪制限 五項 議事録 四款 取締役及び監査役 一項 選任 二項 資格格及世託株 三項 任期の伸長 四項 代表取締役の互選 五項 競業の禁止 五款 新株に對する建設利息の配當 六款 手数料 二節 株券 株主名簿・社債原簿 一款 株券 二款 株主名簿 三款 社債原簿 三節 自己株式の處分 四節 會社の計算 一款 計算書類の提出・備付 二款 法定準備金の積立 三款 創業費・社債發行費・建設利息の償却 一項 創業費の償却 二項 社債發行の償却 三項 建設利息の償却 四項 營業用固定財産及び有價證券の評價 二款 建設利息の償却 二項 營業用固定財産の評價 三項 有價證券の評價 五節 登記 一款 株式譲渡の制限又は株式の裏書禁止の登記 二款 建設利息の登記 三款 配當利益による株式の消却の登記 四款 取締役・監査役・清算人の職務執行の停止・代行者の選任の登記 五款 一時取締役・清算會社に於ては清算人の職務を行ふ監査役の登記 六款 合併による社債の登記 七款 法定清算人の登記 六節 清算人の届出事項 終

東京 振替電話 八三二一八
駿河 電話 八二二二
中央 電話 八二二二
大田 電話 八二二二
前學大

大 同 書 院

大 振 電
阪 替 話
北 大 北
區 三 一 五
梅 一 六 七
田 九 五
新 七 五
道 二 三 二
番 番 番